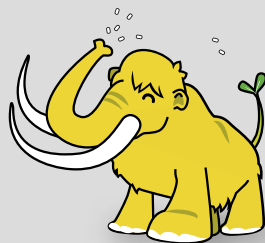


殺虫剤 アセタミプリド・シアントラニリプロール粒剤

**アベイル<sup>®</sup>** 粒剤

農林水産省登録第23623号



## はじめに …

【アベイル粒剤】は、日本曹達株式会社が開発したアセタミプリドと米国デュポン社で開発されたシアントラニリプロールを有効成分としている混合粒剤です。

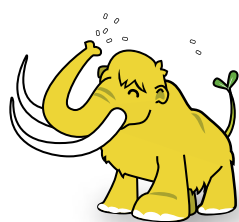
2013年よりNI-36粒剤の試験番号で葉菜類および果菜類等の各種害虫に対して委託試験を実施し、2015年2月に登録を取得いたしました。

本剤は、カメムシ目害虫(特にアブラムシ類、カイガラムシ類)に強いアセタミプリドとチョウ目害虫を中心に、殺虫スペクトラムを有するシアントラニリプロールをバランス良く配合した殺虫剤です。

それらの有効成分により、幅広い殺虫スペクトラムが期待されるだけでなく、野菜類のセル苗やポット苗の育苗期株元処理でも速やかにかつ安定した防除効果が長期間持続するよう、最適化された粒剤となっております。

また、訪花昆虫、天敵類に対しても影響の少ない薬剤です。

ここに本剤の作用特性、使用方法などについてまとめましたので、実際の防除やご指導の際の参考としていただければ幸いです。



## 目次 …

■ はじめに／目次	2
■ 成分・性状／安全性	3
■ 特長／作用機構	4
■ 殺虫スペクトラム／訪花昆虫・天敵	5
■ 作用性・社内試験	6
■ 上手な使い方	9
■ 委託試験データ	11
■ 薬害試験結果、その他	17
■ 委託試験結果(抜粋)	18

## 成分・性状

- 委託試験番号 : NI-36粒剤
- 有効成分 : アセタミプリド .....0.25%  
シアントラニリプロール .....0.50%
- 化合物の系統 : ネオニコチノイド系(アセタミプリド)  
アントラニリックジアミド系(シアントラニリプロール)
- 物理化学的性状 : 褐色細粒

■ IRACグループ :

アセタミプリド	殺虫剤	グループ4A
シアントラニリプロール	殺虫剤	グループ28

## 安全性

### 人畜毒性

普通物(毒劇物に該当しないものを指していう通称)

### 有害性情報(製剤)

項目	使用動物	毒性・程度
急性経口毒性 (LD <sub>50</sub> 値)	ラット	♀ : >2,000mg/kg
急性経皮毒性	ラット	♂,♀ : >2,000mg/kg
眼刺激性	ウサギ	ごく軽度の刺激性あり
皮膚刺激性	ウサギ	刺激性なし
皮膚感作性	モルモット	感作性なし

### 環境影響情報(原体)

項目	毒性・程度
環境影響 (急性影響濃度)	魚類(LC <sub>50</sub> 値): >100mg/l(コイ:アセタミプリド) >16mg/l(コイ:シアントラニリプロール)
	甲殻類(EC <sub>50</sub> 値): 49.8mg/l(オオミジンコ:アセタミプリド) 18.3μg/l(オオミジンコ:シアントラニリプロール)
	藻類(EC <sub>50</sub> 値): >98.3mg/l(緑藻:アセタミプリド) >13mg/l(緑藻:シアントラニリプロール)

## 特長

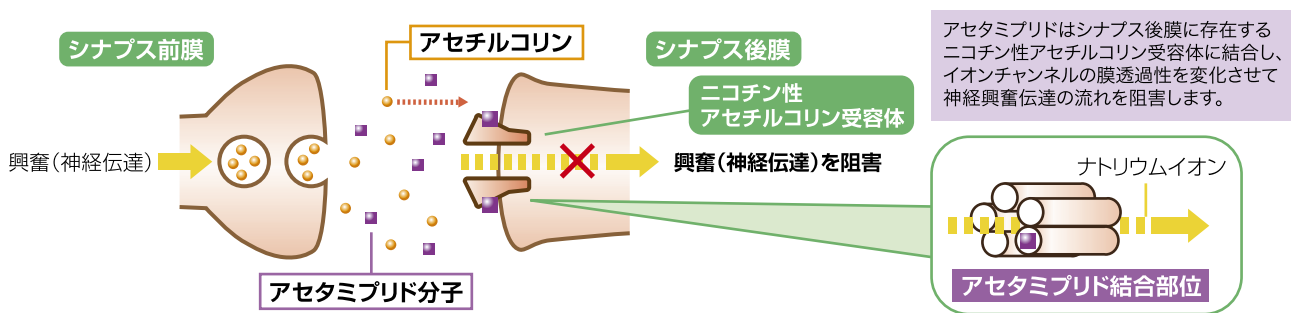
- アセタミプリドとシアントラニリプロールを含有する混合粒剤で幅広い殺虫スペクトラムがあります。
- セル苗やポット苗に対して育苗期後半の株元処理で各種害虫の防除が可能です。
- 速効性と残効力を兼ね備えた防除効果が最適化された粒剤です。
- 速やかに効果が現れるため、一部の害虫が媒介する病害の蔓延を抑制します。
- 混合粒剤なので、異なる作用機構を持つ薬剤抵抗性害虫にも有効です。
- 粒剤タイプの薬剤なので、天敵、訪花昆虫に対して影響の少ない薬剤です。

## 作用機構

### ■ アセタミプリドの作用機構

アセタミプリドは昆虫の神経伝達を阻害し、麻痺・死亡させます。

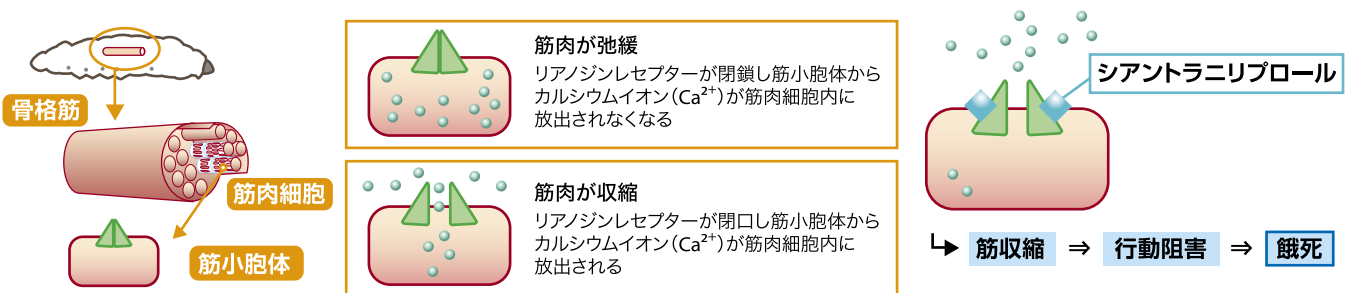
アセチルコリン受容体(ナトリウムイオンチャンネル)は下図のように5つの糖タンパク質(図では棒状のもの)が集まって構成されています。そして、その中心にはナトリウムイオンの通り道が形成されています。アセチルコリン受容体の特定部位にアセチルコリンが結合すると、中央の通り道が開かれてナトリウムイオンが通過します。このナトリウムイオンの通過によって、神経細胞(シナプス前膜)から神経細胞(シナプス後膜)への刺激伝達が行われます。



アセタミプリドはシナプス後膜に存在するアセチルコリン受容体に結合し、イオンチャンネルの膜透過性を変化させて神経伝達を阻害し、麻痺・死亡させます。なお、アセタミプリドは経口による取り込みと接触による経皮的な取り込みのいずれにおいても効果を示すことが確認されています。

### ■ シアントラニリプロールの作用機構

昆虫の骨格筋細胞の筋小胞体は細胞内のカルシウムイオン濃度を調整することにより筋肉の収縮・弛緩をコントロールしています。カルシウムイオンが筋小胞体から細胞内に放出されると筋肉は縮み、逆に筋小胞体にカルシウムイオンが取り込まれ、細胞質中のイオン濃度が下がると弛緩した状態になります。



シアントラニリプロールは筋小胞体のリアノジンレセプターに結合することにより、筋小胞体から細胞内にカルシウムイオンを放出させ続けます。その結果、昆虫は筋収縮・体収縮を起こし、通常の行動ができなくなり、摂食活動を停止してやがて餓死します。経口作用、経皮作用のどちらも効果がありますが、経口作用の方がより優れた効果を発揮します。また、昆虫のリアノジンレセプターに選択的に作用し、ヒトのレセプターに反応しないことがヒトへの安全性が非常に高い理由です。

## 殺虫スペクトラム

	害虫名	効果
チョウ目	ネギコガ	○
	コナガ	○
	ジャガイモガ	○
	ケブカノメイガ	○
	ナノメイガ	○
	ハイマダラノメイガ	○
	アズキノメイガ	○
	クロモンキノメイガ	○
	モンシロチョウ	○
	ヨモギエダシャク	○
	クロメンガタスズメ	○
	メンガタスズメ	○
	タマナヤガ	○
	カブラヤガ	○
	ウリキンウワバ	○
	タマナギンウワバ	○
	イラクサギンウワバ	○
	オオタバコガ	○
	タバコガ	○
	ヨトウガ	○
シロイチモジヨトウ	○	
ハスモンヨトウ	○	
カメムシ目	ヒメナガメ	○
	ナガメ	○
	ツヤアオカメムシ	○
	クサギカメムシ	○
	アオクサカメムシ	○
	チャバネアオカメムシ	○
	シルバーリーフコナジラミ	○
	オンシツコナジラミ	○
	イチゴネアブラムシ	○
	ワタアブラムシ	○
	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	○
	ダイコンアブラムシ	○
	ニセダイコンアブラムシ	○
	チューリップヒゲナガアブラムシ	○
	モモアカアブラムシ	○
	ネギアブラムシ	○
	バラミドリアブラムシ	○
	台湾ヒゲナガアブラムシ	○
ミカンコナカイガラムシ	○	

	害虫名	効果
アザミウマ目	ミカンキイロアザミウマ	○
	ヒラズハナアザミウマ	○
	チャノキイロアザミウマ	○
	ダイズウスイロアザミウマ	○
	ネギアザミウマ	○
	ミナミキイロアザミウマ	○
コウチュウ目	ニジュウヤホシテントウ	○
	ウリハムシ	○
	キスジノミハムシ	○
	ダイコンハムシ	○
	ヤサイゾウムシ	○
	ブドウトラカミキリ	○
ハエ目	チビクロバネキノコバエ	○
	ナモグリバエ	○
	ネギハモグリバエ	○
	ナスハモグリバエ	○
	トマトハモグリバエ	○
	マメハモグリバエ	○
ハチ目	カブラハバチ	○
	ニホンカブラハバチ	○
ダニ目	チャノホコリダニ	×
	カンザワハダニ	×
	ナミハダニ	×
	ハクサイダニ	×
	トマトサビダニ	×

○	活性あり
△	副次的な活性程度
×	活性なし

## 訪花昆虫・天敵

アベイル粒剤の処理時期は『育苗期後半から定植当日まで』ですのでその後放飼される訪花昆虫や天敵類に対する直接的あるいは間接的影響は極めて少ないと考えられますが、各昆虫に対する影響(安全日数)を下記の表にまとめてみました。

化合物名	ミツバチ	マルハナバチ	スワルスキーカブリダニ
アセタミプリド	1日	1日	影響なし
シアントラニリプロール	1日	1日	影響なし

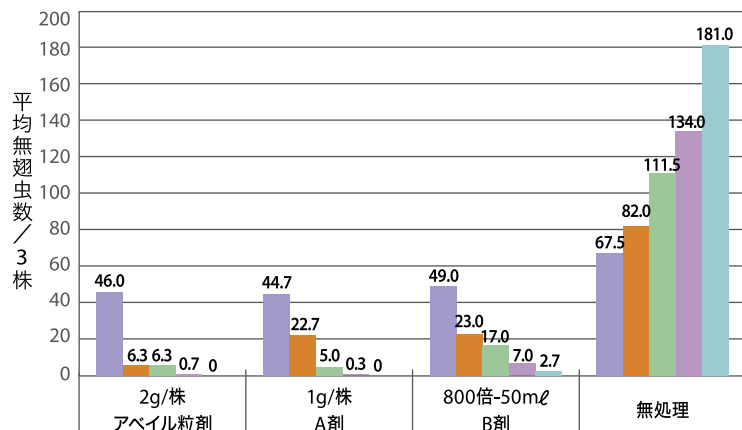
- 両剤ともにミツバチ、マルハナバチに散布当日風乾後、ほとんど影響はありませんが、安全を考えて『安全日数 1日』としています。

## 作用性・社内試験

### 作用性① 速効性

#### きゅうりのワタアブラムシ個体群に対する速効的効果 (2015年)

アベイル粒剤をきゅうり苗に寄生するワタアブラムシに散布すると、既存の粒剤や灌注剤と比較して、より速やかにその増殖を停止させてキュウリ苗を守ります。



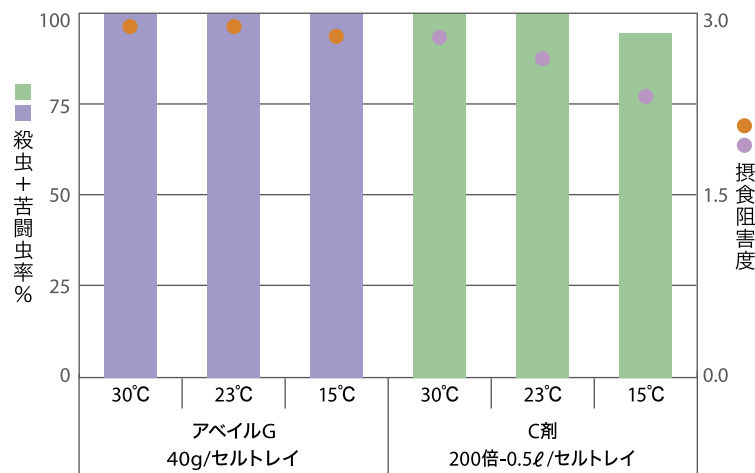
#### 【試験概要】

試験場所：日本曹達(株)榛原フィールドリサーチセンター内温室  
 供試作物：きゅうり、10月27日播種、11月5日に9cmポリポットへ鉢上げ  
 品種：ハイグリーン 21 ステージ：3.0 葉期  
 育苗培土：与作果菜類専用 試験規模：1区1株3反復  
 対象害虫：ワタアブラムシ 累代飼育系接種 + 自然発生  
 処理方法：アベイル粒剤、A剤：所定量をポリポット株元に散粒し、小型ジョウロで50mℓ灌水した。  
 B剤：所定濃度の薬液をポリポット苗の株元に灌注した。  
 処理日：11月30日  
 灌水条件：処理後は培土の乾燥状況に応じてポット底から漏れ出ない程度の灌水を行った。  
 調査方法：寄生数を有翅、無翅別に調査した。

### 作用性② 温度別殺虫活性

#### キャベツのハスモンヨトウに対する温度別殺虫効果 (2015年)

アベイル粒剤は温度による殺虫活性の変動はみられず、どの温度域でも安定してハスモンヨトウ1齢幼虫の食害を阻止します。



#### 【試験概要】

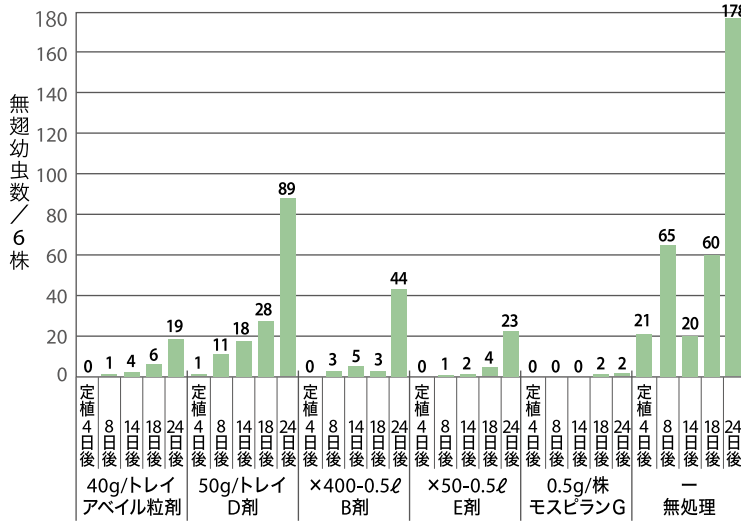
試験場所：日本曹達(株)榛原フィールドリサーチセンター  
 人工気象器および恒温室  
 供試作物：キャベツ 128穴セルトレイ植え  
 品種：金春 ステージ：3.5～4 葉期  
 育苗培土：与作 試験規模：128穴セルトレイ植え1区1株4反復  
 対象害虫：ハスモンヨトウ 2015年場内採集個体群(累代飼育)  
 処理方法：アベイルG：0.31g / 株をセル苗の株元に散粒し、3.91ml / 株の水道水をピペットを用いて灌水した。  
 C剤：所定希釈倍数の薬液を3.91ml / 株セル苗の株元に灌注した。  
 処理日：11月24日 接種日：11月26日  
 試験方法：30°C、23°Cおよび15°Cに設定した人工気象器にセル苗および水道水を用意した。灌水や薬液調製には各温度の水を用い、薬剤処理後のセル苗は直ちに人工気象器に戻した。各セル苗への灌水は処理1日後および2日後に3.91ml / 株ずつ行った。薬剤処理2日後(最終灌水約4時間後)に1苗あたり3葉を切り取ってプラスチックケースに収め、ハスモンヨトウ孵化幼虫10頭を接種した。なお接種後はすべて25°Cの恒温室で管理した。  
 調査方法：接種1日および3日後に生死、苦悶、不明虫(共食いと判断)の判定および摂食阻害度 AF を調査した。摂食阻害度は指数 3.0:食害なし、2.5:微かな食害痕のみ、2.0:無処理区食害量の≦20%、1.0:同 21～50%、0.0:同≧51%を目安に判定した。



## 社内試験結果 (抜粋)

アベイル剤とほぼ同様な処理法の殺虫剤と各種害虫に対する効果を比較してみました。

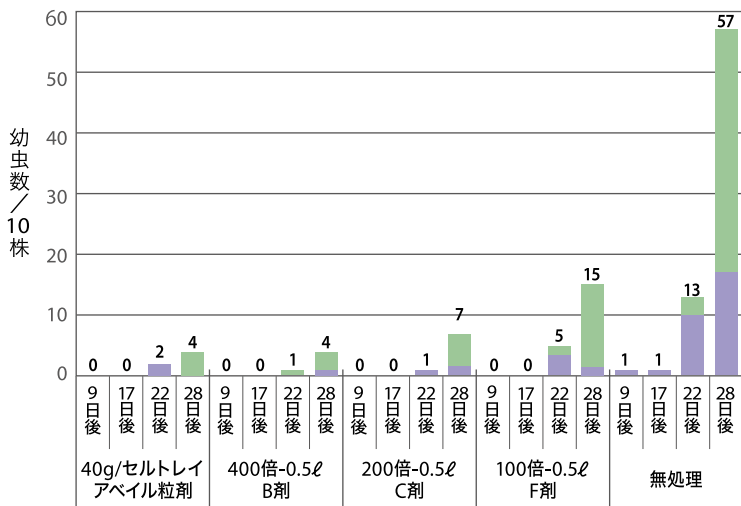
### ■ キャベツのアブラムシ類 (モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ主体) に対する効力 (2015年)



#### 【試験概要】

試験場所: 日本曹達(株) 榛原フィールドリサーチセンター  
 供試作物: キャベツ(金春)、3月31日  
 128穴セルトレイ播種  
 ステージ: 3葉期  
 対象害虫: モモアカアブラムシ 自然発生  
 ダイコンアブラムシ 自然発生  
 試験規模: 1区8株3反復、調査は中央6株  
 定植日: 5月3日  
 灌水条件: 灌水処理～定植まではジョウロにて灌水し、定植後は自然降雨のみとした。  
 調査方法: 寄生虫数を有翅、無翅別に調査した。

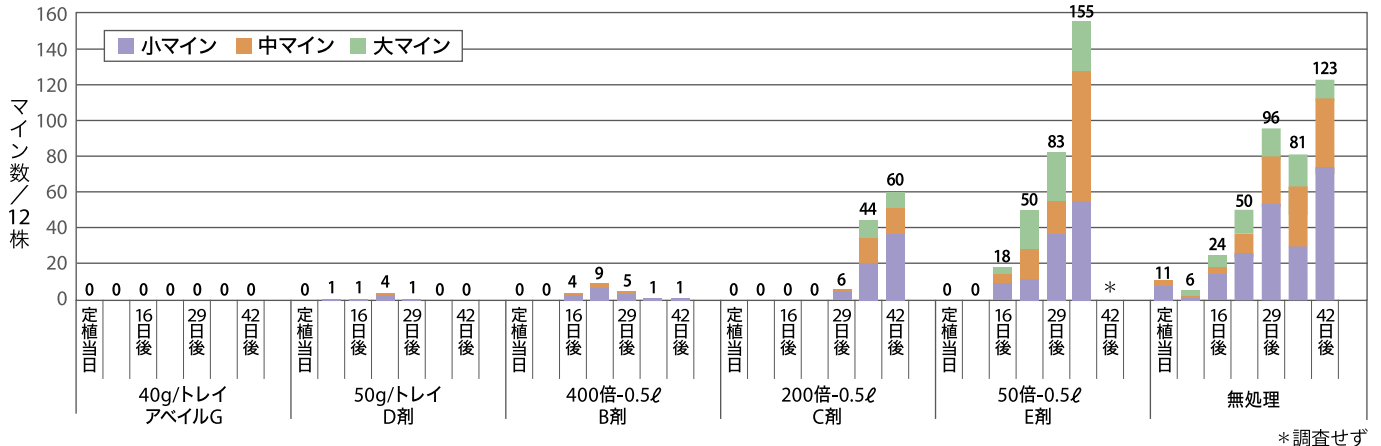
### ■ キャベツのコナガに対する効力 (定植3日前処理) (2013年)



#### 【試験概要】

試験場所: 日本曹達(株) 磐梯フィールドリサーチステーション  
 供試作物: キャベツ(金系201号)、5月21日  
 128穴セルトレイ播種  
 ステージ: 4葉期  
 対象害虫: コナガ  
 試験規模: 1区10株3反復  
 処理日: 薬剤処理: 6月18日  
 定植: 6月21日  
 処理方法: 定植3日前に所定量の薬剤をセルトレイ植えのキャベツ苗に処理し灌水した。  
 調査方法: 株全体に寄生するコナガ幼虫をステージ別に調査した。

### ■ レタスのナモグリバエに対する圃場効力 (定植4日前処理) (2013年)



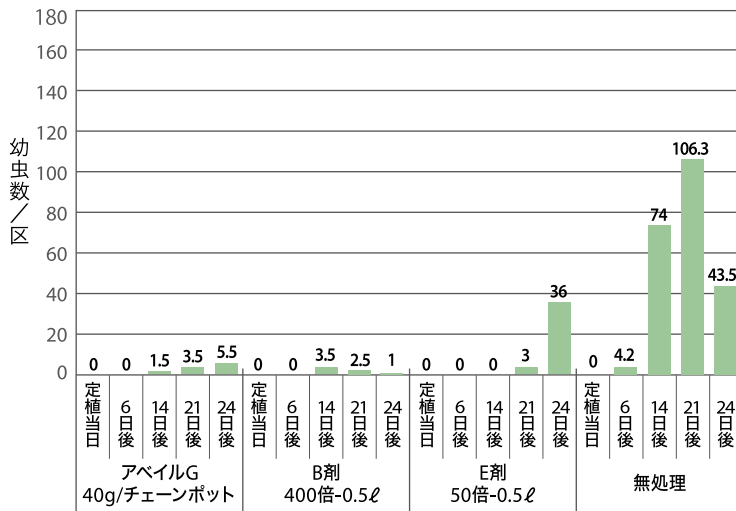
#### 【試験方法】

試験場所: 日本曹達(株) 榛原フィールドリサーチセンター 対象害虫: ナモグリバエ 供試作物: レタス(シスコ) 2月9日播種 200穴セルトレイ植え  
 区制: 1区6株2反復 処理日: 4月12日(定植4日前) 定植: 4月16日  
 処理方法: 定植4日前に、所定量の薬剤をセルトレイの株元に処理し、灌水を行なった。定植当日まではミスト灌水下で管理した。  
 調査方法: 定植当日、定植7日後、16日後、22日後、29日後、36日後、42日後に株全体に寄生するナモグリバエ幼虫の食害痕数を大中小に分けて計数した。

## 社内試験結果 (抜粋)

アベイル粒剤とほぼ同様な処理法の殺虫剤と各種害虫に対する効果を比較してみました。

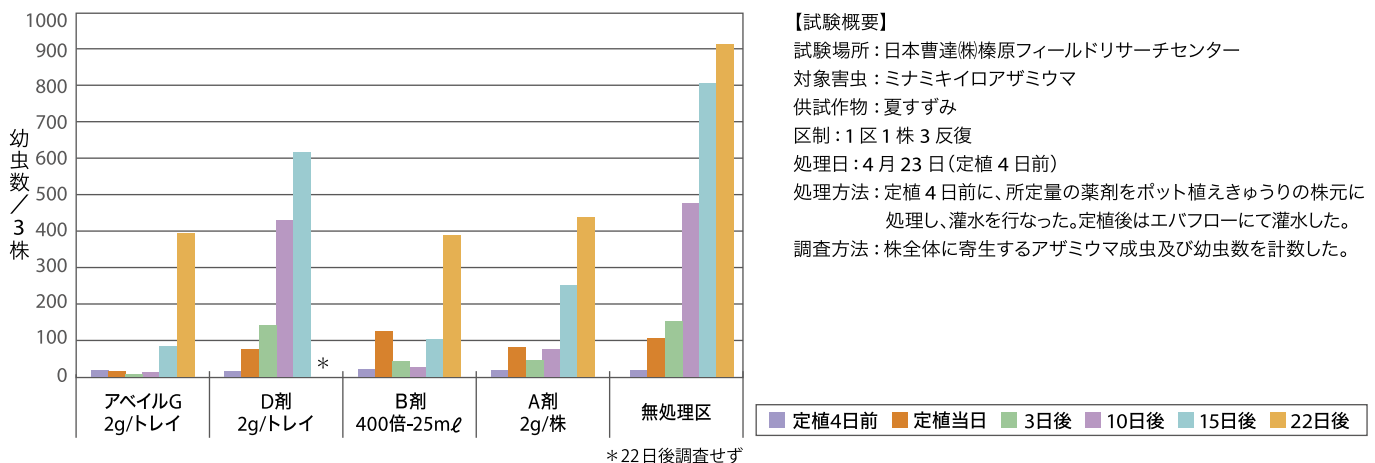
### ■ ねぎのネギアザミウマ幼虫に対する効力 (2013年)



#### 【試験概要】

試験場所：日本曹達(株)榛原フィールドリサーチセンター  
 対象害虫：ネギアザミウマ  
 ステージ：3葉期  
 供試作物：ホワイアワー  
 区制：1区9株2反復  
 処理日：5月27日(定植当日)  
 処理方法：定植当日に、所定量の薬量をチェーンポット植えねぎの株元に処理し、灌水を行なった。定植当日までミスト灌水下で管理した。  
 調査方法：株全体に寄生するネギアザミウマ幼虫数を計数した。

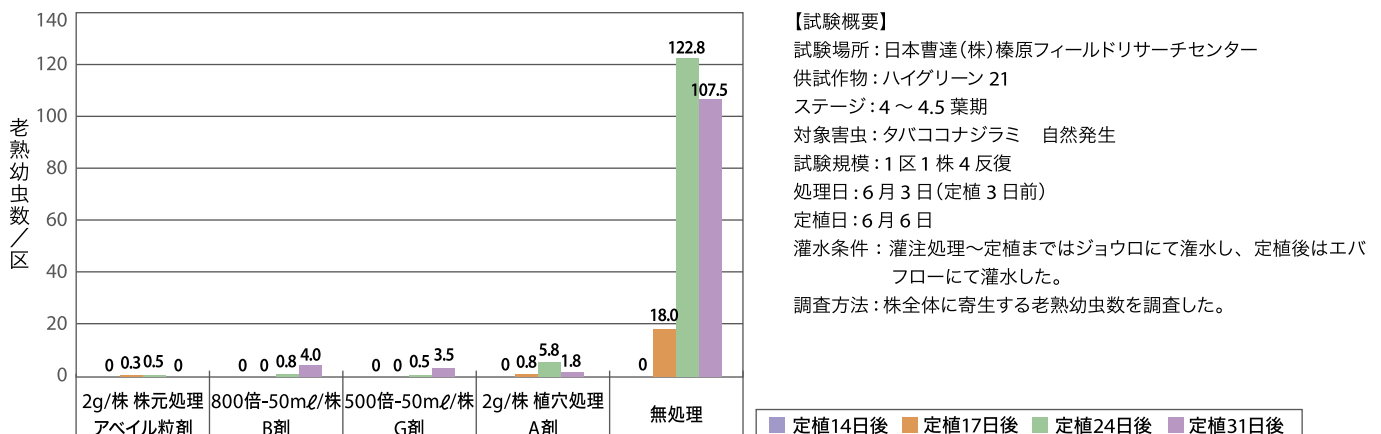
### ■ きゅうりのミナミキイロアザミウマ幼虫に対する効力 (2015年)



#### 【試験概要】

試験場所：日本曹達(株)榛原フィールドリサーチセンター  
 対象害虫：ミナミキイロアザミウマ  
 供試作物：夏すずみ  
 区制：1区1株3反復  
 処理日：4月23日(定植4日前)  
 処理方法：定植4日前に、所定量の薬剤をポット植えきゅうりの株元に処理し、灌水を行なった。定植後はエバフローにて灌水した。  
 調査方法：株全体に寄生するアザミウマ成虫及び幼虫数を計数した。

### ■ きゅうりのタバコナジラミ老熟幼虫類に対する効力 (定植3日前処理) (2014年)



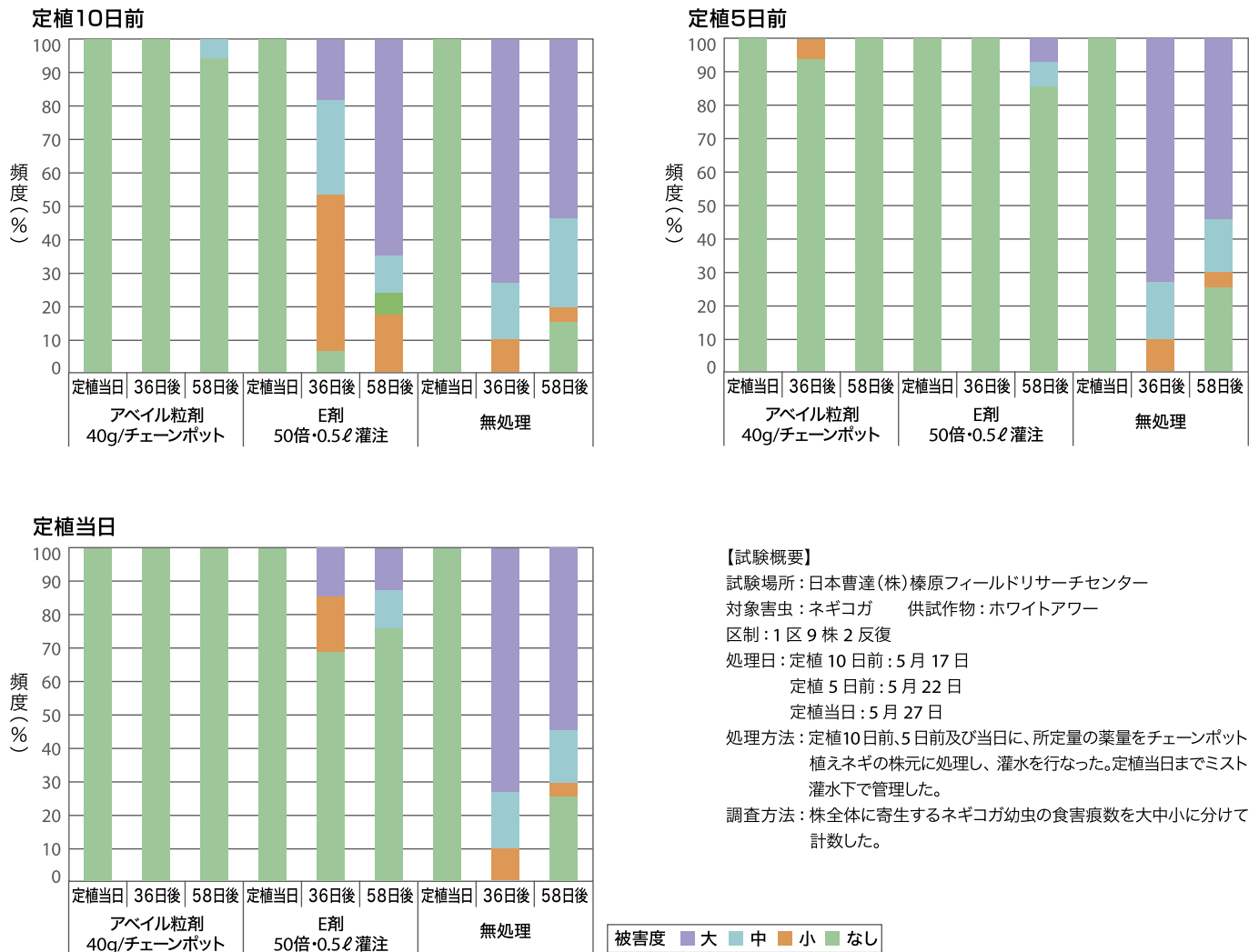
#### 【試験概要】

試験場所：日本曹達(株)榛原フィールドリサーチセンター  
 供試作物：ハイグリーン 21  
 ステージ：4～4.5葉期  
 対象害虫：タバコナジラミ 自然発生  
 試験規模：1区1株4反復  
 処理日：6月3日(定植3日前)  
 定植日：6月6日  
 灌水条件：灌水処理～定植まではジョウロにて灌水し、定植後はエバフローにて灌水した。  
 調査方法：株全体に寄生する老熟幼虫数を調査した。



## 上手な使い方 (セルトレイ/ポットでの粒剤処理) …

■ <sup>\*</sup>ねぎのネギコガ に対する灌注処理タイミング別効果 (2013年) (\*2016年1月12日現在ネギコガの登録はありません。)



- アベイル粒剤の散布は定植前の散粒作業でお手軽に薬剤処理ができます。また、対象害虫の種類にもよりますが、4週間以上の殺虫効果が期待できる省力的な防除方法です。

### ■ 灌水による粒剤の崩壊性について



無処理

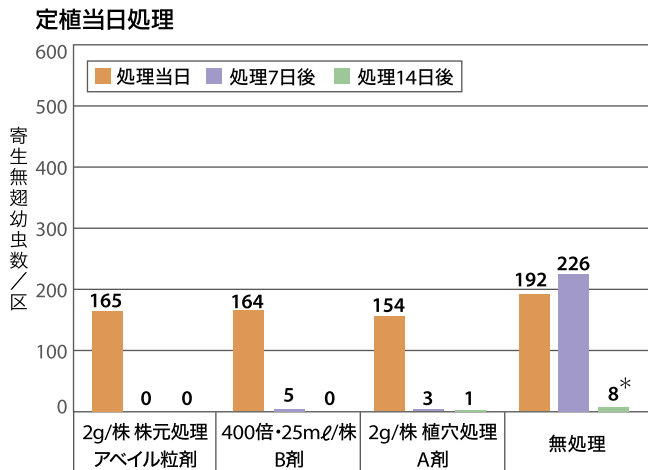
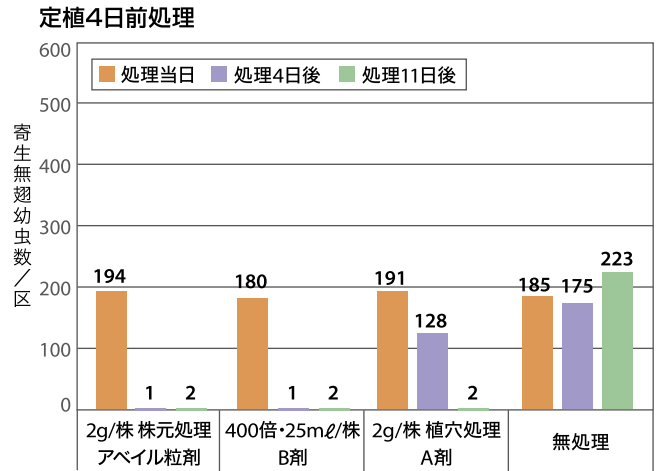
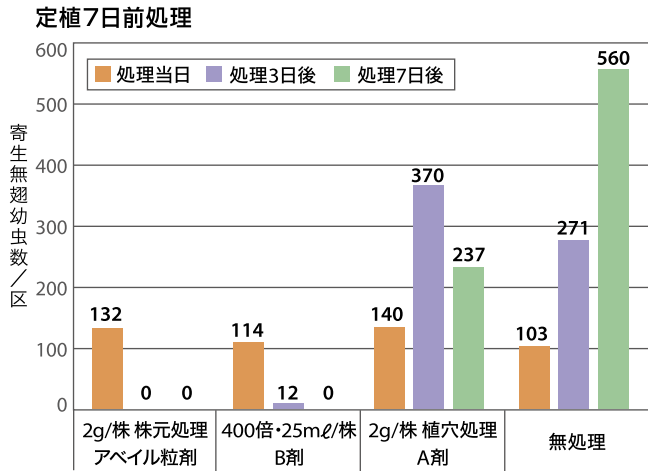
2g 散粒直後

15cc 灌水後

50cc 灌水後

- ポットに少々灌水しても粒剤が溶出して見えなくなることはありませんので、散布を忘れる危険性や2度まきをするおそれはありません。

■ **ピーマンのモモアカアブラムシ<sup>\*</sup>に対する灌注処理タイミング別効果 (2013年)** (\*2016年1月12日現在アブラムシ類の登録はありません。)



\*天敵により減少

**【試験概要】**

試験場所：日本曹達(株) 榛原フィールドリサーチセンター

供試作物：京みどり ステージ：着蕾期

対象害虫：モモアカアブラムシ 自然発生

試験規模：1区4株2反復

処理日：定植7日前(6月18日)

定植4日前(6月21日)

定植当日(6月25日)

定植日：6月25日

灌水条件：灌注処理～定植まではジョウロにて灌水し、定植後はエバフローにて灌水した。

調査方法：株全体の寄生虫を有翅、無翅虫別に調査した。

■ **粒剤散布のタイミングについて**

- 葉菜類、果菜類等全ての野菜苗の散布適期は定植前1週間程度から定植日までです。



# 委託試験データ

## ■ なす - アブラムシ類 (モモアカアブラムシ、ワタアブラムシ)

供試薬剤名	必要量 処理方法	モモアカアブラムシ無翅虫数/10葉				ワタアブラムシ無翅虫数/10葉			
		5月11日 4日後	5月18日 11日後	5月21日 17日後	5月31日 24日後	5月11日 4日後	5月18日 11日後	5月21日 17日後	5月31日 24日後
アベイル粒剤	2g/株 定植3日前 株元処理	0	0	0	0	543	0	9	1
H剤	2g/株 定植時 植穴土壌混和	0	0	0	0	1135	4	0	0
無処理区	—	75	182	669	406	2178	224	159	25

平成 25 年 奈良県病害虫防除所

### 【試験概要】

品種：あのみのみり 定植：5月7日

区制：1区 12m<sup>2</sup> 10株 3連制

発生状況：モモアカアブラムシ 中発生(放虫)  
ワタアブラムシ 中発生(放虫)

処理日：アベイル粒剤：5月4日(定植3日前) 対照薬剤：5月7日

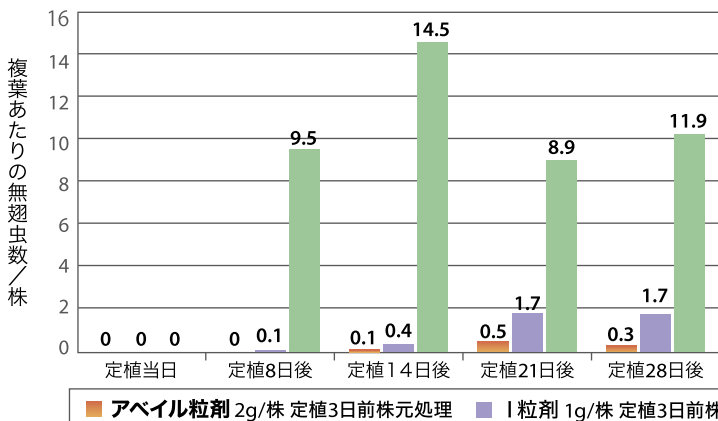
処理方法：アベイル粒剤は2g/株を定植前のポットに株元処理。

対照薬剤は2g/株を定植時に植穴土壌混和。

調査方法：各区10株から、アブラムシが寄生する葉を株あたり1葉(計10葉)選び、毛糸でマークした。各調査日に各マーク葉に寄生する有翅、無翅虫数を計数。

考察：本剤育苗期後半処理は2種のアブラムシに対して対照剤に比べ、効果は同等で、無処理に比べ効果は高い。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

## ■ トマト - アブラムシ類 (モモアカアブラムシ)



平成 25 年 福島県農業総合センター

### 【試験概要】

品種：桃太郎ギフト 定植：6月10日

区制：1区 2m<sup>2</sup> 5株 3連制

発生状況：中発生

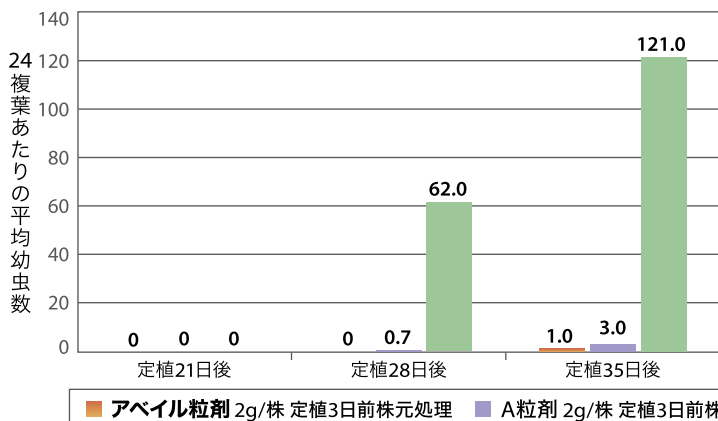
処理日：6月7日(定植3日前)

処理方法：直径10.5cmポット苗の株元に所定量の粒剤を処理。

調査方法：1区5株について各株下位1複葉に寄生している無翅虫数を計数。

考察：本剤株元処理は、対照薬剤と比較して効果が優れ、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられた。被害は認められなかった。

## ■ トマト - コナジラミ類 (タバココナジラミ バイオタイプQ)



平成 25 年 熊本県農業研究センター生産環境研究所

### 【試験概要】

品種：桃太郎8 定植：4月22日

区制：1区 6m<sup>2</sup> 8株 3連制

発生状況：多発生(放虫)

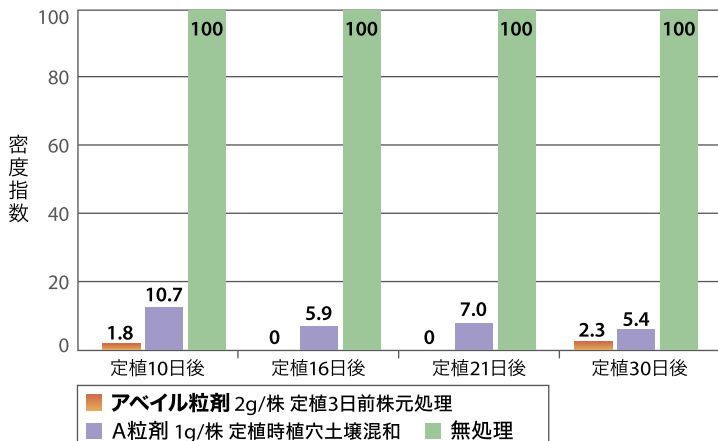
処理日：4月19日(定植3日前) 1段果房開花期

処理方法：直径12cmポット苗の株元に所定量の粒剤を処理し、軽く灌水。

調査方法：各株の上、中、下位から1複葉(3複葉/株)を選び、寄生する4齢幼虫を計数。

考察：本剤育苗期後半処理の効果は対照薬剤と同等であり、無処理に対して高かった。実用性は高い。被害は認められなかった。

## ■ トマト - ハモグリバエ類 (トマトハモグリバエ)



平成 25 年 徳島県立農林水産総合技術支援センター

### 【試験概要】

品種：桃太郎 定植：7月4日

区制：1区 5m<sup>2</sup> 10株 3連制

発生状況：少発生→中発生

処理日：アベイル粒剤：7月1日(定植3日前)

対照薬剤：7月4日(定植当日)

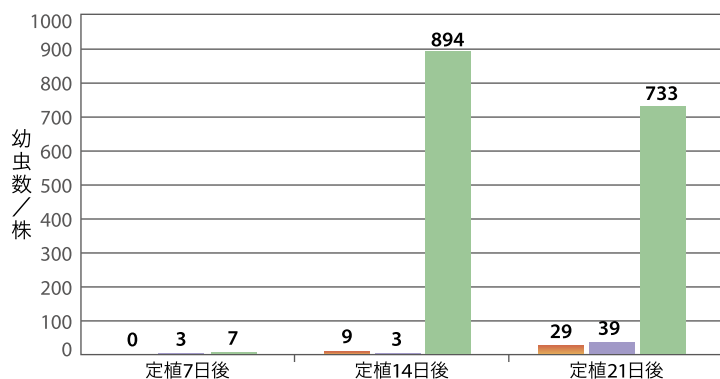
処理方法：アベイル粒剤：所定量を1ポットずつ株元に散粒した。

対照薬剤：定植当日植穴に所定量を散粒後、土壌と混和し、その後定植。

調査方法：定植21日後までは各区10株の全葉、定植30日後は中位5複葉における潜孔数を小メイン、中メイン、大メイン(幼虫脱出痕)別に調査。

考察：本剤株元処理は、対照薬剤と比較して効果が優れ、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。被害は認められなかった。

### ■ ピーマン — コナジラミ類 (タバココナジラミ バイオタイプQ)



■ アベイル粒剤 2g/株 定植3日前株元処理 ■ I粒剤 1g/株 定植3日前株元処理 ■ 無処理

平成 25 年 茨城県農業総合センター 園芸研究所

#### 【試験概要】

品種：みおぎ 定植：5月20日

区制：1区 8.78 m<sup>2</sup> 13株 2連制

発生状況：無発生→多発生(放虫)

処理日：5月17日(定植3日前) 草丈約35cm、生育期

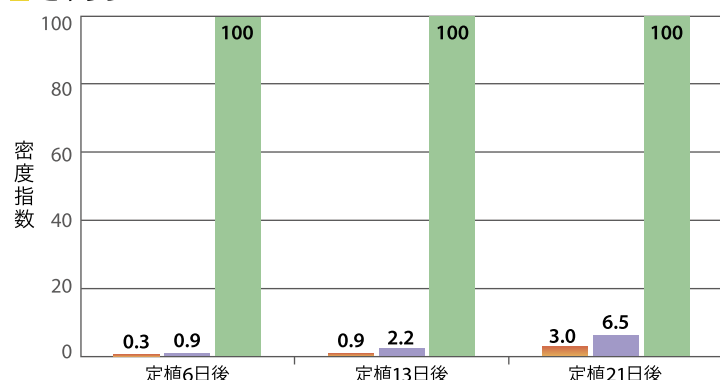
処理方法：アベイル粒剤：所定量を1ポットずつ株元に散粒した。

対照薬剤：所定量を散粒後、土壌と混和し、その後定植。

調査方法：各区とも区の境の株を除く8株について中位葉を株あたり2葉採取し、幼虫数を若、中、老齢に分けて計数。

考察：本剤定植3日前株元処理は、対照薬剤と比較してほぼ同等の効果が認められ、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。薬害は認められなかった。

### ■ きゅうり — アブラムシ類 (ワタアブラムシ)



■ アベイル粒剤 2g/株 定植5日前株元処理 ■ I粒剤 1g/株 定植5日前株元処理 ■ 無処理

平成 25 年 (社)日本植物防疫協会 茨城研究所

#### 【試験概要】

品種：豊美2号 定植：5月14日

区制：1区 6.3 m<sup>2</sup> 14株 3連制

発生状況：甚発生

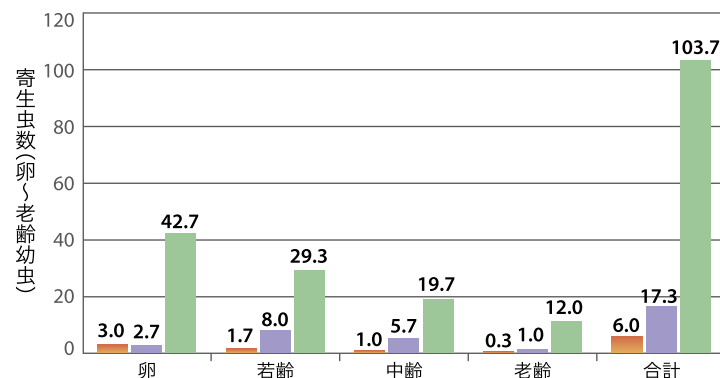
処理日：5月9日(定植5日前) 本葉2~3枚

処理方法：処定量をポット株元へ散粒。処理後軽く灌水。

調査方法：各区中央付近の10株について、株あたり中位3葉に寄生する虫数を有翅及び無翅別に調査。

考察：本剤は対照薬剤と比較して同等であり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

### ■ きゅうり — コナジラミ類 (タバココナジラミ バイオタイプB)



■ アベイル粒剤 2g/株 定植3日前株元処理 ■ M粒剤 2g/株 定植時植穴処理 ■ 無処理

平成 25 年 埼玉県農林総合研究センター

#### 【試験概要】

品種：モア(台木：ゆうゆう輝黒) 定植：4月12日

区制：1区 31.5 m<sup>2</sup> 33株 1連制

発生状況：少発生(放虫)

処理日：アベイル粒剤：4月9日(定植3日前) 展開葉2~2.5枚程度

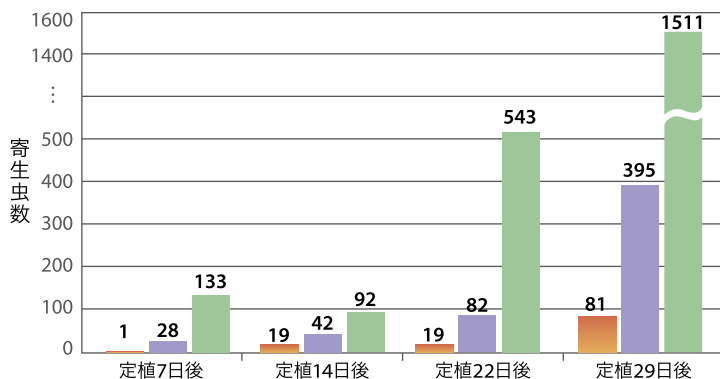
対照薬剤：4月12日(定植直前)

処理方法：アベイル粒剤は苗の株元に処理し、対照薬剤は定植直前に植穴処理した。

調査方法：定植20日後(5月2日)に各ブロック10株の第3及び第4葉からリーフディスク2枚ずつ(直径3cm 計40枚)を採取し、寄生虫数を齢別に調査。

考察：本剤育苗期後半処理の効果は対照薬剤の定植時植穴処理と比較して効果がまがり、無処理と比較して効果は高い。実用性は高いと考えられる。薬害はなかった。

### ■ きゅうり — アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ)



■ アベイル粒剤 2g/株 定植4日前株元処理 ■ A粒剤 2g/株 定植時植穴土壌混和 ■ 無処理

平成 26 年 日本曹達(株)橋原フィールドリサーチセンター

#### 【試験概要】

品種：夏すずみ ビニルハウス栽培 定植：9月1日

区制：1区 3.5 m<sup>2</sup> 14株 3連制

発生状況：中発生

処理年月日：アベイル粒剤：8月28日(定植4日前)

対照薬剤：8月28日(定植4日前)

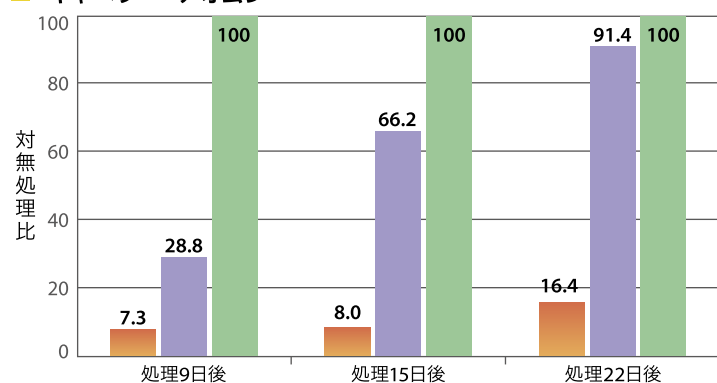
処理方法：アベイル粒剤：定植4日前に株元散粒

対照薬剤：定植時植穴土壌混和

調査方法：各区10株について、中位4葉に寄生する虫数を成虫、幼虫別に調査。

考察：本剤は対照薬剤と比較して防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

## ■ キャベツ - アオムシ



■ アベイル粒剤 40g/トレイ 育苗期後半株元処理 ■ K粒剤 0.5/株 育苗期後半株元処理 ■ 無処理

平成 25 年 (社)北海道植物防疫協会

【試験概要】

品種: 金系 201 号 定植: 7月 9日

区制: 1区 9m<sup>2</sup> 30株 3連制 発生状況: 多発生

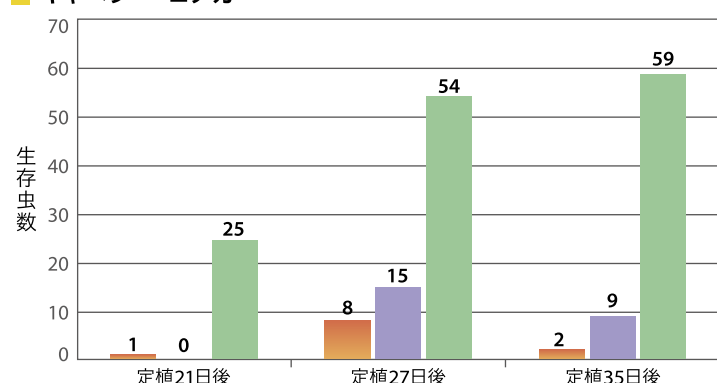
処理日: 7月 8日(定植前日)

処理方法: 所定量の粒剤をセルトレイ(128穴)の株元に処理。

調査方法: 処理 9日後、15日後、22日後に 1区 10株の寄生幼虫数・蛹数を調査。

考察: 本剤育苗期後半株元処理の効果は対照薬剤よりまさる効果で、無処理に対して効果が認められ、実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

## ■ キャベツ - コナガ



■ アベイル粒剤 40g/トレイ ■ F剤 100倍 500mℓ/トレイ ■ 無処理

平成 25 年 (社)日本植物防疫協会 宮崎試験場

【試験概要】

品種: 秋徳SP 定植: 4月 16日

区制: 1区 4.5m<sup>2</sup> 12株 3連制

発生状況: 無発生→中発生

処理日: 4月 12日(定植 4日前) 展開葉 2枚

処理方法: アベイル粒剤: 128穴セルトレイ苗の株元へ散布。

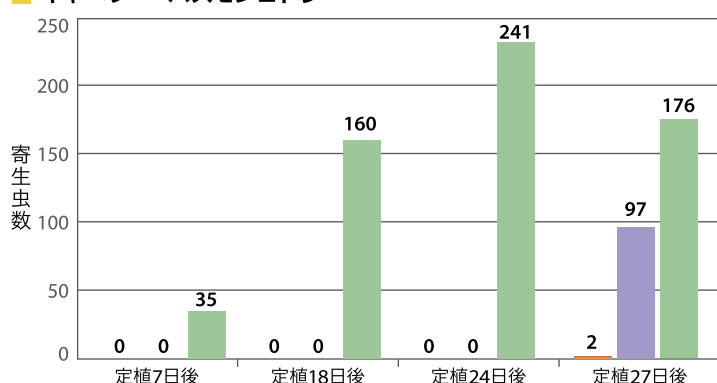
対照薬剤: 所定濃度の薬液をジョウロを用いてトレイあたり 500mℓ 灌注。

調査方法: 各区中央部の 10株について生存幼虫数を若、中、老齢および蛹別に調査した。

考察: 本剤育苗期後半株元散布は対照薬剤と比較してまさり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。

被害は認められなかった。

## ■ キャベツ - ハスモンヨトウ



■ アベイル粒剤 40g/トレイ ■ F剤 100倍 500mℓ/トレイ ■ 無処理

平成 25 年 (社)日本植物防疫協会 宮崎試験場

【試験概要】

品種: 彩音 定植: 9月 6日

区制: 1区 4.2m<sup>2</sup> 14株 3連制

発生状況: 中発生

処理日: 9月 6日(定植当日)

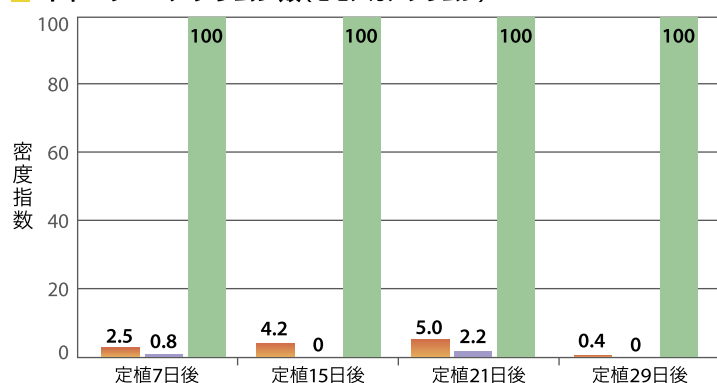
処理方法: アベイル粒剤: 所定量をセルトレイ株元に散布し、十分量灌注。

対照薬剤: 所定量の 100倍希釈液を作物体上より灌注。

調査方法: 区内中央付近 10株について寄生する幼虫数を発育ステージ別に調査。

考察: 本剤の育苗期後半(定植当日)処理は、対照薬剤と比較して効果がまさり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

## ■ キャベツ - アブラムシ類(モモアカアブラムシ)



■ アベイル粒剤 40g/トレイ 定植前日株元処理 ■ K粒剤 0.5/株 定植前日株元処理 ■ 無処理

平成 25 年 (社)日本植物防疫協会 宮崎試験場

【試験概要】

品種: 秋徳SP 定植: 4月 16日

区制: 1区 5.3m<sup>2</sup> 14株 3連制

発生状況: 中発生

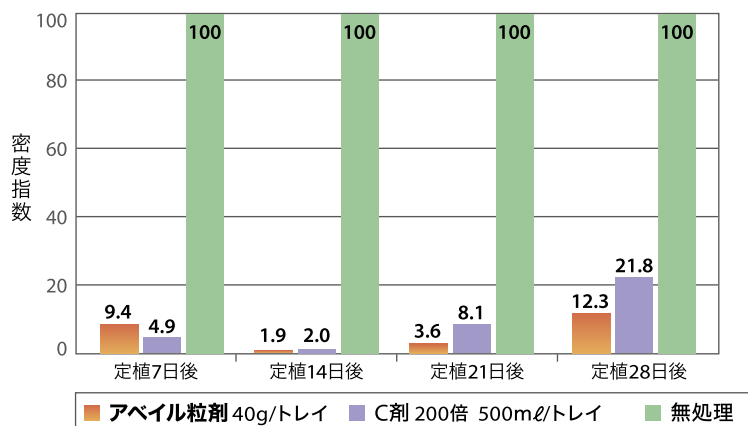
処理日: 4月 15日(定植前日)

処理方法: 所定量の薬剤をセルトレイの株元に散布し、十分量灌注した。

調査方法: 区内中央付近 10株について寄生する虫数を有翅、無翅別に調査。被害は調査日毎に肉眼により観察。

考察: 本剤育苗期後半(定植前日)株元処理は対照薬剤とほぼ同等、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。被害は認められなかった。

## ■ キャベツ - ネギアザミウマ



平成 25 年 神奈川県農業技術センター

【試験概要】

品種：金系 201 号 定植：6 月 10 日

区制：1 区 3.4m<sup>2</sup> 20 株 3 連制

発生状況：甚発生

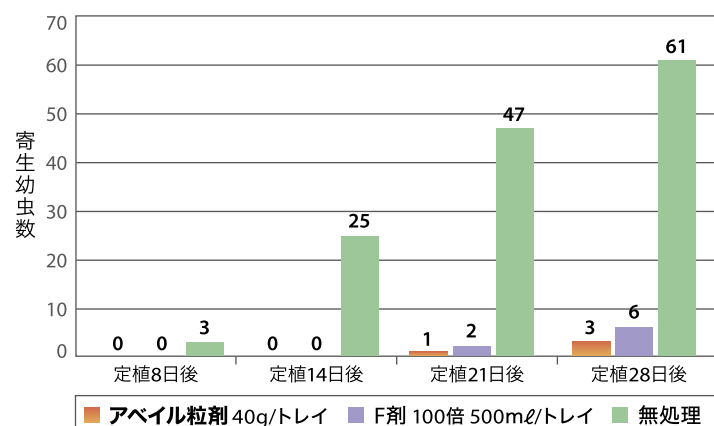
処理日：6 月 7 日 (定植 3 日前) 生育期 (5 ~ 6 葉)

処理方法：規定量を定植 3 日前にセルトレイ苗 (128 穴) に施用。

調査方法：各区 10 株の全葉について幼虫数および成虫数を調査。

考察：本剤の育苗期後半株元処理は、対照薬剤と比較して効果がまさり、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

## ■ はくさい - ハイマダラノメイガ



平成 25 年 兵庫県立農林水産技術総合センター 農林技術センター

【試験概要】

品種：耐病六十日 定植：9 月 10 日

区制：1 区 7.5 m<sup>2</sup> 30 株 3 連制

発生状況：多発生

処理日：9 月 9 日 (定植前日)

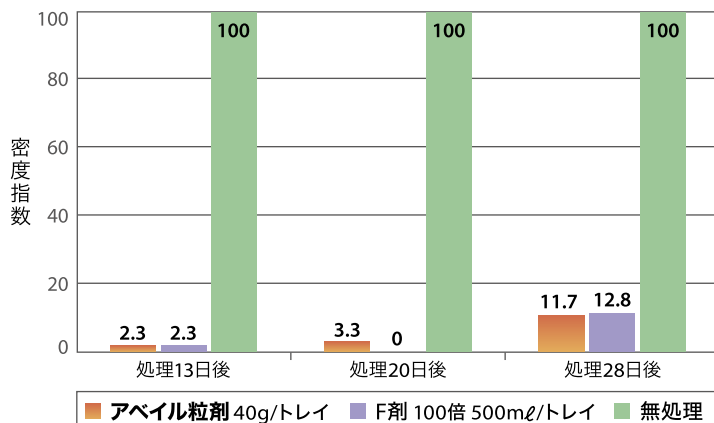
処理方法：アベイル粒剤：所定量をセルトレイ株元に散布し、十分灌水。

対照薬剤：所定量の 100 倍希釈液を植物体上より灌注。

調査方法：60 株についてハイマダラノメイガの寄生幼虫数を調査。

考察：本剤の定植前日株元処理は対照薬剤と比較して効果がほぼ同等で、無処理と較べて効果は高く、実用性は高いものと思われる。葉害は認められなかった。

## ■ ブロッコリー - アオムシ



平成 25 年 (社)日本植物防疫協会 宮崎試験場

【試験概要】

品種：ハイツSP 定植：5 月 16 日

区制：1 区 5.25m<sup>2</sup> 14 株 3 連制

発生状況：無発生→多発生

処理日：5 月 13 日 (定植 3 日前) 展開葉 2 枚

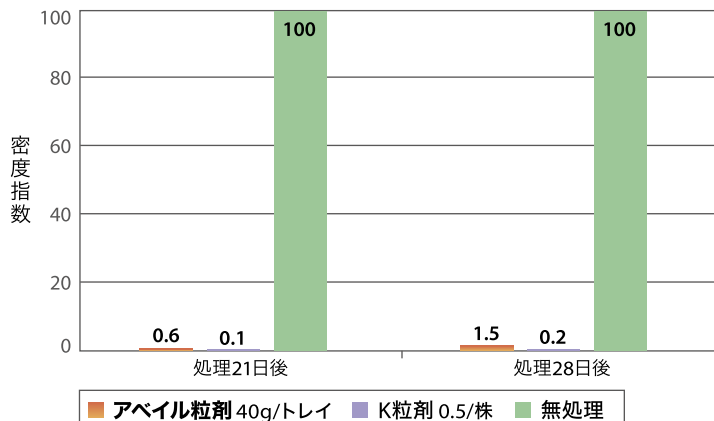
処理方法：アベイル粒剤：所定量を 128 穴セルトレイ株元に散布。

対照薬剤：所定濃度の薬液をジョウロを用いて灌注。

調査方法：各区内中央部 10 株について寄生する幼虫数を发育ステージ別に調査した。

考察：本剤育苗期後半株元処理は、対照薬剤と比較して効果は同等、無処理と比較して高い防除効果が認められた。実用性は高いと考えられる。葉害は認められなかった。

## ■ ブロッコリー - アブラムシ類 (モモアカアブラムシ)



平成 26 年 新潟県農業総合研究所 高冷地農業技術センター

【試験概要】

品種：ピクセル 定植：8 月 1 日

区制：1 区 4.7m<sup>2</sup> 20 株 3 連制

発生状況：多発生

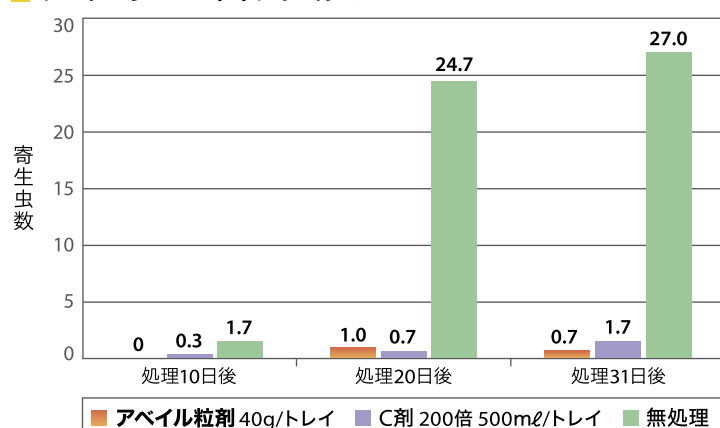
処理日：7 月 30 日 (定植 2 日前) 本葉 2 枚展開

処理方法：128 穴セルトレイ苗の上から均一に散粒し、手で苗をなでて株元に粒剤を落とし、ジョウロで軽く灌水して定着させた。

調査方法：各区中央付近の 10 株に寄生する虫数を有翅、無翅別に計数。

考察：対照薬剤とほぼ同等の効果を示し、無処理に対して効果は高かった。実用性は高いと判定した。葉害は認められなかった。

## ■ ブロッコリー - ネギアザミウマ



平成 26 年 岩手県農業研究センター

【試験概要】

品種：アンフリー747 定植：8月29日

区制：1区 8.0m<sup>2</sup> 20株 3連制

発生状況：少発生

処理年月日：8月29日(定植当日) 本葉3～4枚期

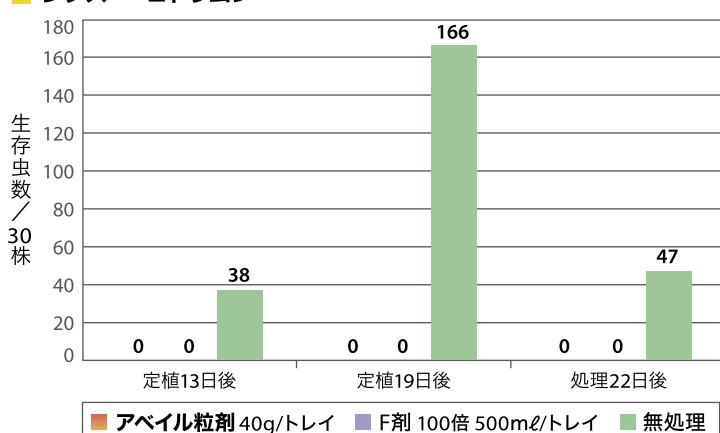
処理方法：アベイル粒剤：128穴セルトレイに手で均一に散布後、軽く灌水。

対照薬剤：所定濃度の薬液をジョウロを用いてセルトレイ苗に灌注処理。

調査方法：各区16株を任意に選定し、葉に寄生するネギアザミウマをステージ別に調査。

考察：本剤育苗期後半(定植当日) 株元処理は対照薬剤とほぼ同等の効果を示し、無処理に対して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

## ■ レタス - ヨトウムシ



平成 26 年 (社)日本植物防疫協会 茨城研究所

【試験概要】

品種：みずさわ 定植：4月22日

区制：1区 4.3m<sup>2</sup> 24株 3連制

発生状況：多発生(放虫)

処理日：5月14日(定植当日)

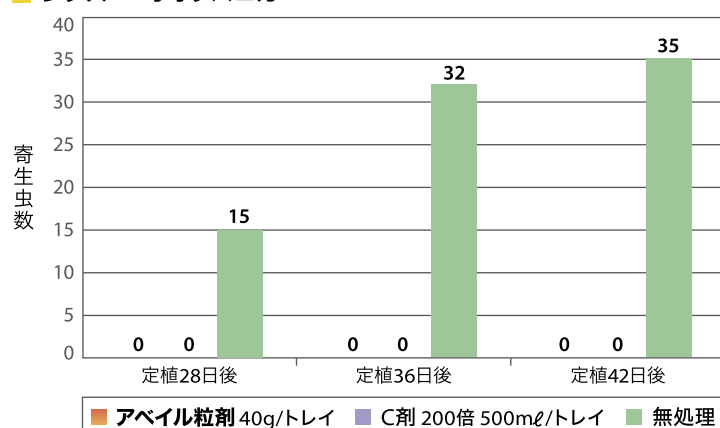
処理方法：アベイル粒剤：220穴ペーパーポット苗の株元へ散布。

対照薬剤：所定濃度の薬液をジョウロを用いて220穴ペーパーポット苗に灌注。

調査方法：各区中央付近10株(計30株)の寄生幼虫数を发育ステージ別に調査。

考察：本薬剤は対照薬剤と比較して同等の効果を示した。無処理と比較して防除効果は高かった。実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。

## ■ レタス - オオタバコガ



平成 26 年 徳島県立農林水産総合技術支援センター

【試験概要】

品種：マイヤー 定植：9月17日

区制：1区 7.2m<sup>2</sup> 53株 3連制

発生状況：多発生

処理日：アベイル粒剤：9月15日(定植2日前)

対照薬剤：9月17日(定植当日)

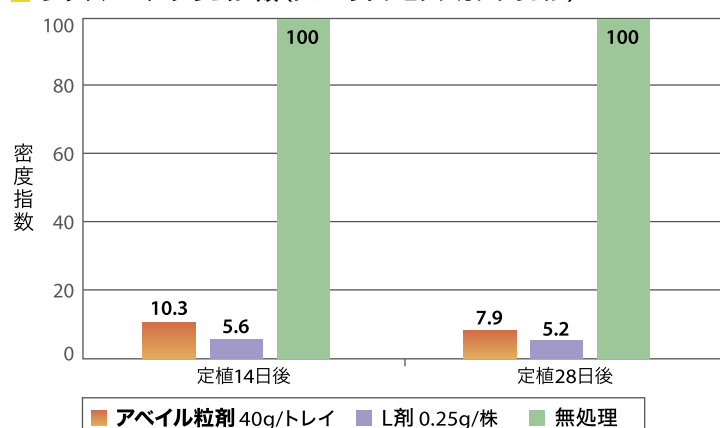
処理方法：アベイル粒剤：200穴セルトレイ苗の株元へ散布。

対照薬剤：所定濃度の薬液をジョウロを用いてセルトレイ苗に灌注。

調査方法：各区より中央20株を抽出し、幼虫数を齢別に調査。

考察：本剤の定植2日前株元処理は対照薬剤と比較して同等の効果を示し、無処理に対して効果は高い防除効果が認められた。実用性は高いと思われる。薬害は認められなかった。

## ■ レタス - アブラムシ類 (チューリップヒゲナガアブラムシ)



平成 25 年 (社)日本植物防疫協会 茨城研究所

【試験概要】

品種：みずさわ 定植：5月16日

区制：1区 4.0m<sup>2</sup> 22株 3連制

発生状況：中発生(放虫)

処理日：5月15日(定植前日) 展開葉3～4葉

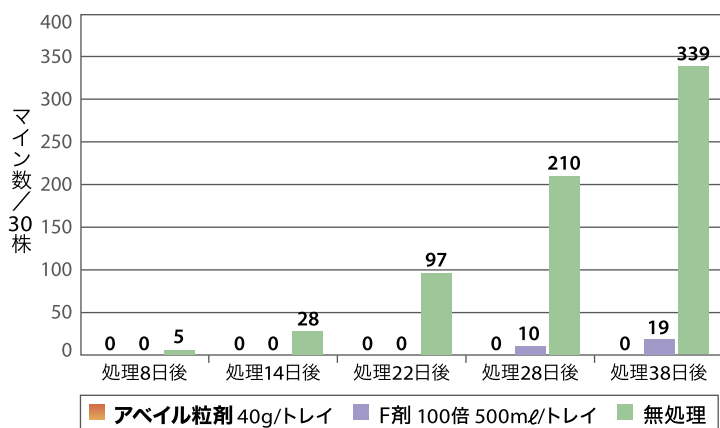
処理方法：所定量を220穴ペーパーポット苗の株元へ散布。

処理後は葉上に載った薬剤を手で払い落とし、軽く灌水。

調査方法：各区中央付近10株の生息虫数を有翅・無翅別に調査。

考察：本剤処理は対照薬剤と比較して同等の効果を示し、無処理区と比較して防除効果が認められた。実用性はありと考えられる。薬害は認められなかった。

### ■ レタスー ナモグリバエ

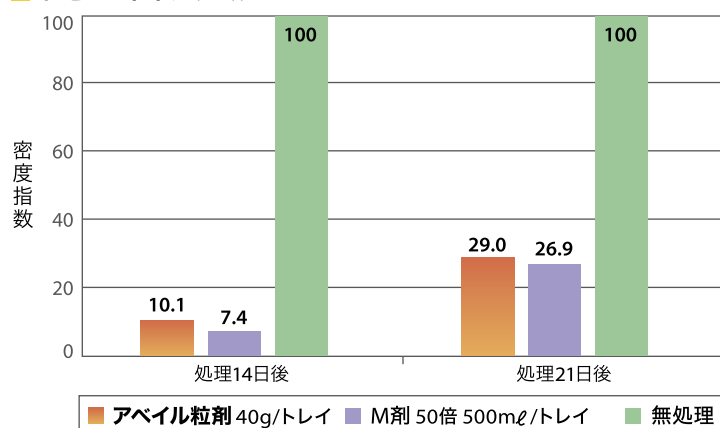


平成 25 年 長野県野菜花き試験場佐久支場

**【試験概要】**

品種：Vレタス 定植：5月20日  
 区制：1区 10.1m<sup>2</sup> 70株 3連制  
 発生状況：中発生  
 処理日：5月20日(定植当日)  
 処理方法：所定量を200穴セルトレイ株元散布し、葉上の薬剤を払い落とし後に水道水をジョウロ灌水。対照薬剤は所定量をジョウロで灌注処理。  
 調査方法：各区10株(計30株)について全葉のマイン数を調査。  
 考察：本剤の当日株元散布は、対照薬剤と比較し、同等の効果であった。無処理と比較して、高い防除効果が認められた。実用性は高いと判定した。被害は認められなかった。

### ■ ねぎー ネギアザミウマ

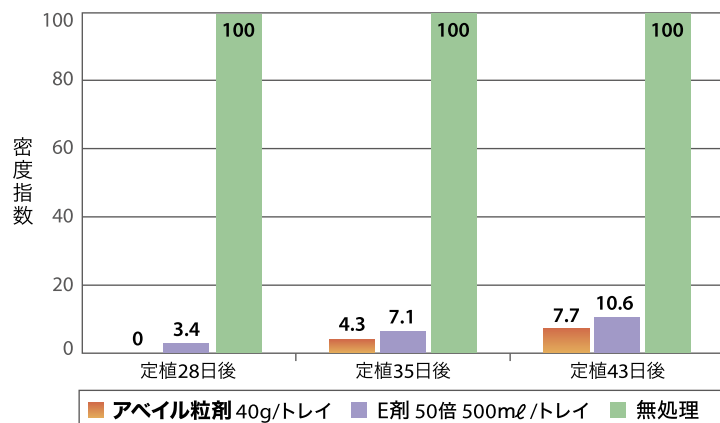


平成 25 年 鳥取県農林総合研究所園芸試験場 弓浜砂丘地分場

**【試験概要】**

品種：夏扇4号 定植：5月28日  
 区制：1区 6m<sup>2</sup> 240株 3連制  
 発生状況：中発生  
 処理日：5月28日(定植当日) (2~3葉期、草丈15cmで剪葉)  
 処理方法：アベイル粒剤：定植当日に200穴セルトレイあたり40gを均一に株元に散布後灌水。  
 対照薬剤：定植当日、所定濃度の薬液をジョウロを用いてセルトレイあたり500ml灌注。  
 調査方法：各区50株、上位2葉に寄生するネギアザミウマを成・幼虫別に調査し、密度指数を算出。  
 考察：本剤の育苗期後半株元処理は、対照薬剤と比較してほぼ同等の効果であり、無処理と比較して効果が認められた。実用性はあると考えられる。被害は認められなかった。

### ■ ねぎー ハモグリバエ類 (ネギハモグリバエ)



平成 25 年 秋田県農業試験場

**【試験概要】**

品種：吉蔵 定植：5月31日  
 区制：1区 12m<sup>2</sup> 480株 3連制  
 発生状況：中発生  
 処理日：5月31日(定植当日)  
 処理方法：アベイル粒剤：定植当日にチェーンポット苗(264穴)に手播きし、灌水。  
 対照薬剤：定植当日、所定濃度の薬液をジョウロを用いてチェーンポットあたり500ml灌注。  
 調査方法：各区中央部の連続する50株の上位3葉に寄生する幼虫数を調査した。  
 考察：本剤の定植時チェーンポット散布は、対照剤と比較してほぼ同等の効果であり、無処理と比較して効果が高く、実用性は高いものと考えられる。被害は認められなかった。





## 薬害試験結果

作物名	品種名	処理薬量	薬害
なす	とげなし千両2号、筑陽	4g/株(倍量)	—
		2g/株	—
トマト	大型福寿、cf 桃太郎ファイト	4g/株(倍量)	—
		2g/株	—
ピーマン	京みどり	4g/株(倍量)	±
		2g/株	±
きゅうり	北進、夏すずみ、ハイグリーン21	4g/株(倍量)	±
		2g/株	±
キャベツ	金系201号、彩峰	80g/セルトレイ(倍量)	—
		40g/セルトレイ	—
はくさい	春光、無双	80g/セルトレイ(倍量)	—
		40g/セルトレイ	—
ブロッコリー	緑積、緑嶺、グリーンフェイス	80g/セルトレイ(倍量)	—
		40g/セルトレイ	—
レタス	カイザー、極早生シスコ	80g/セルトレイ(倍量)	—
		40g/セルトレイ	—
非結球レタス	グリーンウェーブ、サニーレタス	80g/セルトレイ(倍量)	—
		40g/セルトレイ	—
ねぎ	ホワイトスター、ホワイトソード	80g/チェーンポット(倍量)	—
		40g/チェーンポット	—

—	問題となる薬害なし
±	軽微な葉縁のネクロシス：実用上問題なし

### 薬害症状について

アベイル粒剤の処理によって一部の作物に下図のようなアセタミプリド由来の薬害症状が葉縁に発現する場合がありますが、処理時既展開葉にのみ発現します。その後の展開葉には発現しませんし、作物の生長にはほとんど影響がありません。

#### きゅうり(4g/株処理、品種：北進)の薬害症状



↑ ○内の白化部分

# 委託試験結果 (抜粋)

作物名 (品種名)	栽培条件	供試害虫名 (調査項目)	試験場所	圃場	発生 条件	実施 年度	処理量	処理方法	回数	処理月日 < 調査時期 >	対 照	対 無 処理	判 定	葉 害
なす (千両2号)	播種: 3/25 定植: 5/15	アブラムシ類 (モモアカアブラムシ) <無処理比(無翅)>	福井植	露地	中	2013	2g/株	株元処理 (定植3日前)	1	5/12(育苗期後半) (処理31,34日後)	B	A	A	—
なす (千両2号)	定植: 7/31	アブラムシ類 (ワタアブラムシ) <密度指数 LA>	徳島	施設	中→極小	2013	2g/株	株元処理 (定植3日前)	1	7/29(育苗期後半; 定植3日前) (処理5,12日後)	B	A	A	—
トマト (桃太郎ギフト)	播種: 4/26 定植: 6/10	コナジラミ類 (オンシツコナジラミ) <補正密度(老L)>	福島	施設	中	2013	2g/株	株元処理 (定植3日前)	1	6/7(定植3日前) (処理11~31日後)	B	A	A	—
トマト (桃太郎はるか)	播種: 5/21 鉢上げ: 6/5	コナジラミ類 (オンシツ・タバココナジラミ) <補正密度(老L)>	神奈川	施設	多	2013	2g/株	株元処理 (定植5~3日前)	1	6/25(育苗期後半) (定植31,35日後)	B	A	A	—
トマト (桃太郎ギフト)	播種: 4/26 定植: 6/10	アブラムシ類 (モモアカアブラムシ) <対無処理比(AL)> <密度指数(無翅AL)>	福島	施設	中	2013	2g/株	株元処理 (定植3日前)	1	6/7(定植3日前) (処理31日後)	B	A	A	—
トマト (ホーム桃太郎)	定植: 5/13	アブラムシ類 (ワタアブラムシ) <補正密度(4thL)>	石川植	露地	少	2013	2g/株	株元処理 (定植3日前)	1	5/12(育苗期後半) (処理32日後)	B	A	A	—
トマト (桃太郎)	定植: 7/4	ハモグリバエ類 (トマトハモグリバエ) <密度指数(メイン)>	徳島	施設	小→中	2013	2g/株	株元処理	1	7/1(育苗期後半 定植3日前) (処理13~33日後)	A	A	A	—
トマト (CF桃太郎はるか)	播種: 7/7 定植: 8/14	ハモグリバエ類 (トマトハモグリバエ) <防除価>	神奈川 農技セ	施設	中	2014	2g/株	株元処理	1	8/11(定植3日前) (定植27日後)	B	A	A	—
ピーマン (みおぎ)	播種: 3/26 定植: 5/20	コナジラミ類 (タバココナジラミQ) <密度指数L>	茨城園	施設	無→多 (放虫)	2013	2g/株	株元処理	1	5/17(育苗期後半) (定植21日後)	B	A	A	—
ピーマン (みはた2号)	定植: 6/12	コナジラミ類 (タバココナジラミB,Q) <密度指数L,羽化殻>	高知(虫)	施設	中 (放虫)	2014	2g/株	株元処理	1	6/9(定植3日前) (処理16,23,30日後)	B	A	A	—
きゅうり (フリーダム1号)	定植: 9/27	コナジラミ類 (タバココナジラミQ) <密度指数L>	山口(病虫)	施設	中 (放虫)	2013	2g/株	株元処理	1	9/24(定植3日前) (定植28日後)	A	A	A	—
きゅうり (エクセレント節成2号)	定植: 4/11	コナジラミ類 (タバココナジラミQ) <補正密度指数4L>	日植防宮崎	施設	無→多	2013	2g/株	株元処理	1	4/8(定植3日前) (定植28日後)	B	A	A	—
きゅうり (豊美2号)	定植: 5/14	アブラムシ類 (ワタアブラムシ) <密度指数(A,L)>	日植防茨城	施設	甚	2013	2g/株	株元処理	1	5/9(定植5日前) (定植6~21日後)	B	A	A	—
きゅうり (青山きゅうり)	播種: 4/17 定植: 6/6	アブラムシ類 (ワタアブラムシ) <補正密度指数(A,L)>	高知大(生理)	露地	多	2013	2g/株	株元処理 (定植5~3日前)	1	6/3(定植3日前) (処理3,7,14日後)	B	A	A	—
きゅうり (モア)	定植:H25/4/12	アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ) <補正密度指数(A,L)>	埼玉	施設	少 (放虫)	2013	2g/株	株元処理	1	4/9(定植3日前) (定植20日後)	A	A	A	—
きゅうり (夏すずみ)	播種: 8/9 定植: 9/1	アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ) <密度指数(A,L)>	日曹 (静岡県)	施設	中	2013	2g/株	株元処理 (定植4日前)	1	8/28(定植4日前) (定植22,29日後)	A	A	A	±
キャベツ (金系201号)	定植: 7/9	アブラムシ類 (モモアカアブラムシ, ニセダイコンアブラムシ) <無処理比(A,L)>	北海道植	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	7/8 (7/30)	モ:B ニ:B	A A	A A	— —
キャベツ (秋徳SP)	定植: 4/16	アブラムシ類 (モモアカアブラムシ) <密度指数(A,L)>	日植防宮崎	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理	1	4/15(定植前日) (定植7~29日後)	B	A	A	—
キャベツ (金系201号)	定植: 6/25	コナガ <無処理比(L,P)>	北海道植	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	7/8 (7/23,30)	A	A	A	—
キャベツ (長野中生SE)	播種: 5/9 定植: 6/4	コナガ <密度指数(L,P)>	愛知東三河 (野)	露地	多	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	6/3(定植前日) (定植14,21日後)	A	A	A	—
キャベツ (長野中生SE)	播種: 5/9 定植: 6/4	アオムシ <密度指数(L,P)>	愛知東三河 (野)	露地	少	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	6/3(定植前日) (処理7日後)	A	A	A	—
キャベツ (彩音)	播種: 8/6 定植: 8/30	アオムシ <密度指数(L)>	兵庫植	露地	少	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	8/30(定植当日) (処理28日後)	A	A	A	—
キャベツ (味星)	播種: 8/21 定植: 9/18	ハスモンヨトウ (殺虫数,若L)	福岡豊前	露地	多 (放虫)	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	9/17(定植前日) (処理16日後)	A	A	A	—
キャベツ (彩音)	定植: 9/6	ハスモンヨトウ <補正密度(L)>	日植防宮崎	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理	1	9/6(定植当日) (処理7~27日後)	A	A	A	—
キャベツ (金系201号)	播種: 5/13 定植: 6/10	アザミウマ類 (ネギアザミウマ) <密度指数(L)>	神奈川	露地	甚	2013	40g/ セルトレイ	株元処理	1	6/7(定植3日前) (処理28日後)	A	A	A	—

作物名 (品種名)	栽培条件	供試害虫名 (調査項目)	試験場所	圃場	発生 条件	実施 年度	処理量	処理方法	回数	処理月日 < 調査時期 >	対 対 照	対 無 処 理	判 定	薬 害
キャベツ (金系201号)	定植: 5/29	ネギアザミウマ (密度指数(A,L))	日植防茨城	露地	少→多	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/26(定植3日前) (定植14~27日後)	A	A	A	—
キャベツ (長野中生SE)	播種: 4/28 定植: 5/23	ネギアザミウマ (密度指数(A,L))	愛知東三河	露地	多	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/22(定植前日) (処理14日後)	A	B	B	—
はくさい (無双)	播種: 7/26 定植: 8/19	ハイマダラノメイガ (密度指数(L)、被害度)	神奈川	施設	多	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	8/16(定植3日前) (処理10日後)	A	A	A	—
はくさい (鮮黄)	播種: 6/27 定植: 7/17	ハイマダラノメイガ (被害度、被害株数)	日植防宮崎	露地	甚	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	7/16(定植前日) (定植13~30日後)	B	B	B	—
ブロッコリー (ピクセル)	定植: 5/2	アオムシ (密度指数(L))	徳島	露地	無→中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	5/1(定植前日) (処理28日後)	A	A	A	—
ブロッコリー (ハイツSP)	定植: 5/16	アオムシ (密度指数(L))	日植防宮崎	露地	無→多	2013	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/13(定植3日前) (処理13~28日後)	B	A	A	—
ブロッコリー (ピクセル)	播種: 7/6 定植: 8/1	アブラムシ類 (モモアカアブラムシ) (密度指数(A,L))	新潟高冷	露地	多	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	7/30(定植2日前) (処理28日後)	B	A	A	—
ブロッコリー (ピクセル)	定植: 8/29	アブラムシ類 (ニセダイコンアブラムシ) (密度指数(A,L))	鳥取園	露地	多	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	8/29(定植当日) (処理20、28日後)	B	A	A	—
ブロッコリー (アンフリー 747)	定植: 8/29	ネギアザミウマ (対無処理比(A,L))	岩手(病虫)	露地	少	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	8/29(定植当日) (処理20、31日後)	B	A	A	—
ブロッコリー (サマードーム)	播種: 3/18 定植: 5/8	ネギアザミウマ (密度指数(L))	兵庫	露地	少→中	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/7(定植前日) (処理21日後)	B	A	A	±
レタス (みずさわ)	定植: 9/20	オオタバコガ (密度指数(L))	日植防茨城	露地	多 (放虫)	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	9/19(定植前日) (定植10、20日後)	A	A	A	—
レタス (マイヤー)	定植: 9/17	オオタバコガ (密度指数(L))	徳島	露地	多	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	9/15(定植2日前) (定植35、42日後)	B	A	A	—
レタス (ラプドル)	播種: 5/3 定植: 6/6	ヨトウムシ (補正密度(L))	岩手植	露地	少 (放虫)	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	6/3(定植3日前) (処理20、21日後 =放虫2、3日後)	A	B	B	—
レタス (みずさわ)	播種: 4/22 定植: 5/14	ヨトウムシ (密度指数(L))	日植防茨城	露地	多 (放虫)	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/14(定植当日) (定植13~27日後)	B	A	A	—
レタス (みずさわ)	定植: 5/16	アブラムシ類 (チュウリップヒゲナガアブラムシ) (密度指数(A,L))	日植防茨城	露地	中 (放虫)	2013	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/15(定植前日) (定植14、28日後)	B	B	B	—
レタス (みずさわ)	播種: 5/1 定植: 5/22	アブラムシ類 (チュウリップヒゲナガアブラムシ) (密度指数(A,L))	日植防茨城	露地	多 (放虫)	2014	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/22(定植当日) (定植13日後まで)	B	A	A	—
レタス (サクセスラシック)	定植: 5/13	ハモグリバエ類 (ナモグリバエ) (密度指数(P))	岩手県北	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	5/13(定植当日) (処理42日後)	A	A	A	—
レタス (シーカー)	播種: 4/21 定植: 5/14	ハモグリバエ類 (ナモグリバエ) (密度指数(P))	岩手県北	露地	中	2014	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	5/12(定植2日前) (処理35日後 (定植33日後))	A	A	A	—
ネギ (吉蔵)	定植: 5/31	ネギアザミウマ (密度指数(A,L))	秋田	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理	1	5/31(定植当日) (処理21、28、35日後)	B	A	A	—
ネギ (夏扇4号)	播種: 4/1 定植: 5/28	ネギアザミウマ (密度指数(A,L))	鳥取園弓浜	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	5/28(定植当日) (処理14、21日後)	B	B	B	—
ネギ (羽緑一本太)	播種: 5/11 定植: 6/26	ハモグリバエ類 (ネギハモグリバエ) (被害度)	新潟高冷	露地	中	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	6/25(定植前日) (処理35日後)	A	A	A	—
ネギ (ホホワイトスター)	播種: 4/22 定植: 6/19	ハモグリバエ類 (ネギハモグリバエ) (対無処理比・被害度)	石川植	露地	多	2013	40g/ セルトレイ	株元処理 (育苗期後半)	1	6/1(定植2日前) (処理40日後)	A	A	A	—

## 【判定基準】

対対照: 対照薬剤との効果の比較 対無処理: 無処理区と比較した効果 判定: 実用性の評価

	対対照	対無処理	判定
A	効果が優る	効果が高い	実用性高い
B	効果が同等	効果はある	実用性あり
C	効果がやや劣る	効果はあるがやや低い	効果は低いが実用性あり
D	効果が劣る	効果が低い	実用性なし

●使用前にラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。  
●空容器は圃場などに放置せず、適切に処理してください。



## 日本曹達株式会社

本社 〒100-8165 東京都千代田区大手町2丁目2番1号  
☎(03)3245-6178 FAX(03)3245-6084  
ホームページアドレス <http://www.nippon-soda.co.jp/nougyo/>

大阪支店 ☎(06)6229-7343 関東営業所 ☎(048)677-6010  
札幌営業所 ☎(011)241-5581 名古屋営業所 ☎(052)238-0003  
仙台営業所 ☎(022)227-1741 福岡営業所 ☎(092)771-1336  
信越営業所 ☎(0255)81-2323 松山営業所 ☎(089)931-7315